寛政十二年
著之

標南鯨記

木崎攸々軒安永二年ノ著ヲ距ル廿七年ナリ

上

131

A 00
5849

此冊子ハ井口五郎のかれし所ノ一幅ヲ
乞ケ二帖トナスモノニシテ附物ヲ写シテ了
（唐津市嶋億ニ所蔵）小迎の弄 餘一ノ延ト同物ニシテ唯
柳南ニ補延アレ 因テ附物始ノ幅ヲ
右序ト去き いせし幅ノ図ヲ抜写シテ
悉主ニ附シ 同物たてキス ノし 又伊藤者
夢之弄ノ 稲穂幅 獲軒同説たもノ弄
同物ナレド 序文ハ 主意異なる文字ハ撰
豊同じからず

R 46851

男爵田中芳男氏寄贈
先代田中芳男男旧蔵書
昭和七年

鯨族譜 肥前州大村捕鯨圖

鯨記序

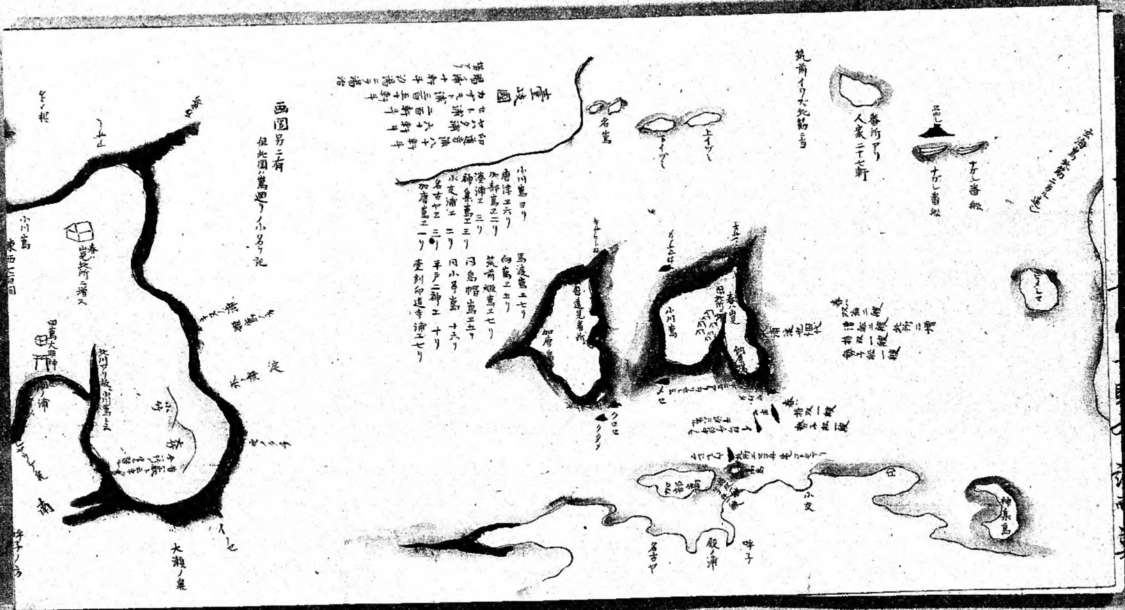
夫天造地化而萬物生焉我東海産魚種甚多矣名狀有未詳者蓋唐宋本草蟲魚不分也故今多以俚諺方言爲據亦唯茫洋哉今有日東魚譜然未盡備也又閩書及府志之書名狀猶未詳也余志于本草日舊矣於魚譜漢名詳否欲以圖畫彩色類聚區繫以良毒禁忌而事頗廣博不能給資也或舉託畫工則奪其寫生不敢成圖謀朋友則乃若而莫

有果之者焉於此乎深思遠求積以累
月焉余也謂皆年東西或不遑跋涉乎
國彼或厭或棄今茲己未臘月肥前唐
津人依々軒所著漁鯨記二卷余幸得其八
一取而覧之鯨魚之記至矣盡矣因摸之㡳
于家卷末以余所考補鯨乃之不足也夫
象者獸之大者也陳藏器曰象具十二生肖
肉各有分段惟鼻此代本肉炙食糟食更美
云以此察之鯨肉又有分段民物長大者兆
可盡食者也象鯨者海陸之尤大者也人間
食此者昔從吾　先王之世而知有焉今人
得食鯨肉者隨漁人屠商而已矣今全
鯨存焉何者何別不知殊其肯綮唯指
其尾皮骨耳華國者山多海遠故少矣種
故名狀比東方孟浪無也蓋萬物依時有出沒
草木之有無亦異地故亦不專其觀象融晃
是愈鯨肉埋地數百年其味不變實皆膏之長
也余也聞食醫然人以食料宜忌問之則鯨方佳
之義習而答此耳亦唯可愧之一也故今舉名
狀詳吾將撰魚譜魚譜類聚百錄兼得寧
略以示同志之人亦余所幸爾

（己未）寛政十一年 [illegible]

柳南　谷村元珉源紙甫識

筑前國


壹岐國
西国另ニ有
但此図ハ嶋廻リノ小名ヲ記
筑前イワズ此筋ニ当
番所アリ
人家二十七軒
ナガレ番船
小川嶋ヨリ
唐津エ六リ
加部嶋エ二リ
湊浦エ三リ
神集嶋エ三リ
小友浦エ二リ
名古ヤエ三リ
加唐嶋エ一リ
馬渡嶋エ七リ
向嶋エ五リ
筑前姫嶋エ七リ
平戸ニ神エ十リ
壹岐印道寺浦エ七リ
小川嶋
東西二百間
小川嶋
加唐島
名古や
殿浦
呼子
小友
神集嶋
大瀬ノ泉
呼子ノ方
南

○御廻見之節海路呼子之浦ヨリ所々エ之里数書上之写

○唐津領
名古屋エ二十丁
加部嶋エ十四丁
加唐嶋エ　三リ
馬渡嶋エ　五リ
小友浦エ　二十丁
唐津エ　五リ
湊浦エ　二リ
波戸崎エ一リ
小川嶋エ三リ
松嶋エ　二十丁
向嶋エ　五リ
土器崎エ一リ
神集嶋エ二リ
相賀エ　三リ

○筑前領
姫嶋エ　七リ
キレエ　十リ
烏帽子エ　七リ
小呂ノ嶋エ十四リ
玄海嶋エ　十四リ
相ノ嶋エ　十里

○平戸領
大嶋エ十リ
生月エ十五リ
アヲウエ　七リ
二神エ　八リ
名嶋エ　七リ
五嶋エ四十八リ
對嶋エ六十一リ

○壹岐領
印通寺エ　十リ
御之浦エ　十三リ
瀬戸エ　十三リ
勝本エ　十六リ
平戸エ　十三リ

○御領
深江エ　十リ
加布里エ十リ
下関エ四十二リ
長崎エ六十一リ

○柳南曰此図恐非真仮望鑑者往高山之頂或居于海崎而昼夜交監望于大洋者以見鯨鯢之来乃揺幕苫以示遠漁者

○早銛（モリ）　長二丈付釘末ニ二所結

○万銛（ヨロズモリ）　長四尺重壹貫目

○銛

○手形庖丁

○和蘭國之状刃生鉄ゟ善鋼
鍛者不定

一追船十六艘 但勢子舟ト云
十三人乗但一人羽指頭又船ニハ梶水主一人乗ル是ヲ艫ヲヒト云八挺立之早船方能
銛ヲ持テ乗ル

一双海船 六艘 網船之百石ノ船也網十九反宛一艘ニ積ム八挺立之
但下諸ト云ハ二艘ニ十九反宛都合三十八反也

一双海附 六艘 是モ鯨ノ如シ道具モ同様ニ乗持八挺立也卯之年ヨリ一艘増
然一艘ニ網十六反積也

一持双 四艘 鯨ノ如シ鯨荷ノ船也少シ大クシテ丈夫ニ作ル
羽指此船ニ乗移ル銛ヲ打也

一手ロリ船二艘 鯨船ノ如シ網六反宛積也六挺立卯ノ年ヨリ云
但一諸ト云ハ一艘ニ六反宛都合十二反也

一網三拾六反 但一反ニ付加賀其萱ヲ七拾二房七十二房也
一房ノ重サ七百廿目ヨリ五六十目也
一房七百五拾目ニメ一反七十二房ニ積リ
百三十六反ニテ萱ヲ四万三千八百七十五斤也

一網十反 但是ハ余斗也○柳南曰用此網者近年之製古無之

一代船数四拾艘

一目代之者并羽指水主納屋人共四百八十六人平日定リ
漁事之節者外ニ日雇モノ入ル

一別當一人惣頭也

一コフ頭一人目代也 但道具造兼

一日雇帳付二人目代也 但日雇之世話賃銭請拂

一魚店掛リ二人目代也 但切込之分差圖

一釜ノ落二人目代也 但魚店油煮釜等之世話

一魚コフ七八人斗目代也 但鯨掛取ニ来ル時吟味薪等之世話

一魚切親父一人 但道具造之差圖ヲウケ所之庖丁ヲ兼ル

一本魚切五六人斗 但鯨取ル時納屋前ニテ脊ニ乗リ働

一中切五六人斗 但濱ニテ小切ヲスル

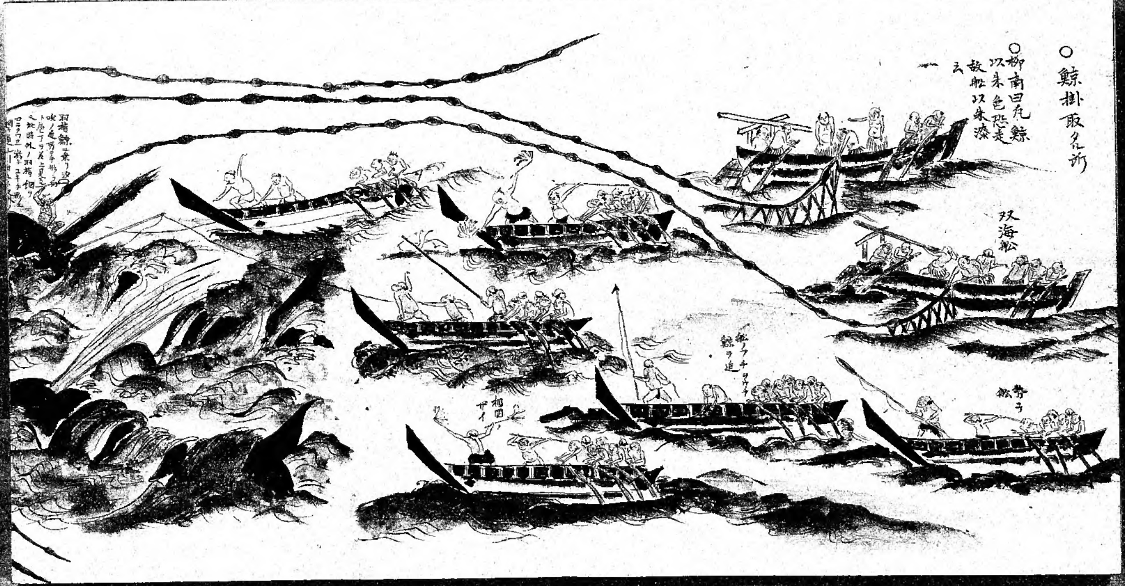
一網括ニ四人斗 但轆轤之網ヲ所々ニ付ル

一飯焼四人斗

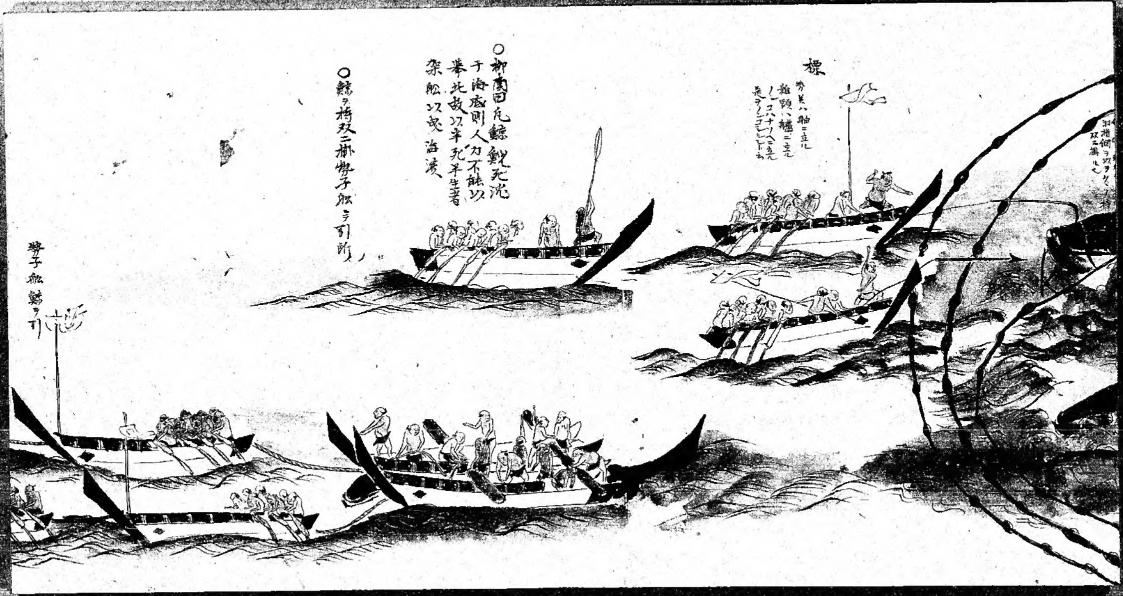
一土器崎山見二人

一小川嶋山見十五人

一加唐嶋山見十五人

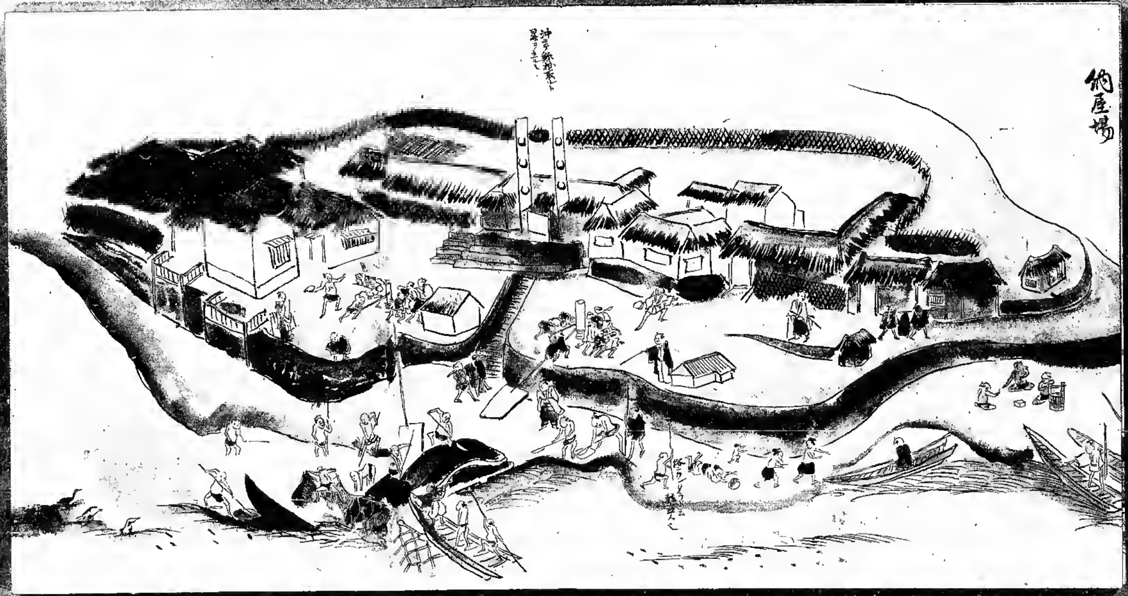


○鯨掛取之所
○柳南曰凡鯨以朱色恐走故船以朱漆云
双海船
船ノフチタタキ
鯨ヲ追
勢子船
相図ザイ



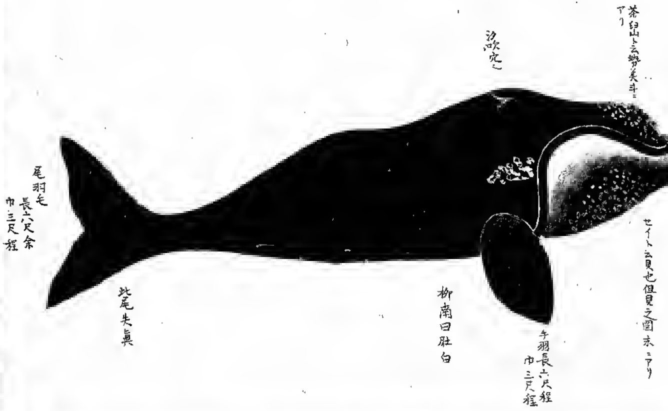
○柳園曰凡鯨斃死沈于海底則人力不能以挙此故以半死半生者架船以曳海濱
○鯨ヲ持双ニ掛持子船ヲ引所
持子船鯨ヲ引
標

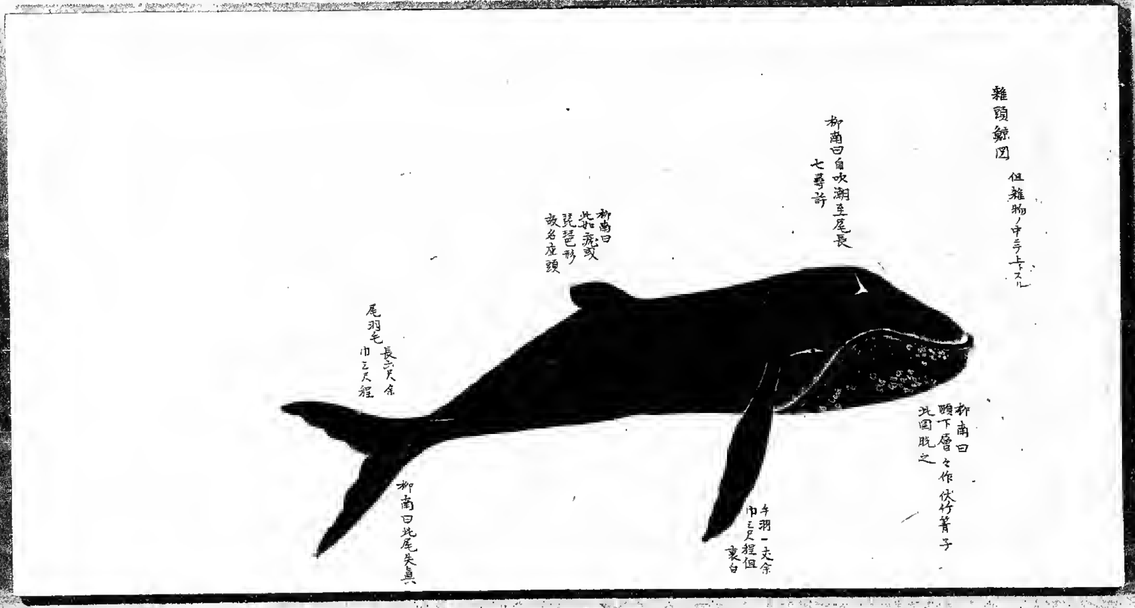
伊藤氏ノ固トハ船
住吉ヨカラズく


納屋場

本名不知一羽ツヽ交リ来ル混雑ノ中ヱ交リ入故ニ度々怪家アリテ飛去リカタキ時此鳥翁ニテ羽ナトヲクテイノ事スルト忽飛去行コト妙之是ヲ俗ニ医者殿ト云
本名不知俗ニ大鳥ト云漁人此鳥ニハ不構故ニ大略人ノ足ノモトマテ来ル肉ヲ喰之

勢美鯨図




雑頭鯨図
但雑物ノ中ニテ上トスル
柳南曰自吹潮至尾長
七尋許
柳南曰
此形或
琵琶形
故名座頭
尾羽毛 長六尺余
巾三尺程
柳南曰
頤下層々作 伏竹箐子
此図脱之
手羽一丈余
巾三尺程但
裏白
柳南曰此尾失真

長須鯨

但雜頭ニ似テ長シ

柳南曰吹潮至尾羽毛長十五尋許也多取油不食料但赤肉之處为食味不善此圖似失真

兒鯨圖 但勢美ニ似テ小ク鬚白シ

栁南曰浅黄灰色也背脊之間尾有白班点無沈自吹潮穴至尾羽毛長六尋許也

一勢美鯨又勢比トモ書

一雑頭鯨但此内ニ真雑頭又ノウサ是ヲノシコトモ云

一児鯨但子鯨ニアラス別種ナリ

一長須鯨但此内ニ白長須ト云モアリ又小キツレヲニタリト云

一真向鯨

一鰯鯨

右之外ニモ種類有ル由〇都南曰凡鯨鯢六種也餘皆奇変之邑之

〇大納屋 大概小納屋之分左ノ如シ然モ年ニヨリテ定ナカリ

筋納屋

大骨納屋

白骨納屋

阿腹納屋

〇扇 〇臓 〇閘ノ丸 〇大骨 〇立羽 〇尾羽毛〇筋丸切

〇白骨 〇カバチ 〇鬚

右之類大納屋并小納屋ニ入ル也然年々寄テ定リナコウナリ

一本ノ魚ト云ハ勢美一本ヲ云也大小ニカヽラス一艘ニ立ル也

一雑頭ハ七合ニ立ル

一長須ハ猿ニテ魚ノ善悪ヲ見合テ合タヲ定ル捌方雑頭同様ナリ

一児鯨ハ長須ト同様之捌方ハ勢美ト同断

一懐子持ト云ハ胎内ニ有ル子也一本ニ不立

一白子ト云ハ生レテ一ヶ月斗内ヲ云也薄鼠色ナリ
但勢美ハ一本ニ立テ雑頭ハ三合ニ立ル

一黒子ト云ハ生レテ一ヶ月程過テ其年中ヲ云也 但勢美ハ一本ニ立ル雑頭三合ニ立ル

一連ト云ハ二年子モ三年子モ親見分大概同様之親同様ニテ一本ニ立ル

一勢比ノ子持ハ親モ一艘子モ一艘ニ立ル故ニ二本也

一雑頭ノ子持ハ親七合拵テ子ノ三合ヲ合テ一艘トシテ勢美一本ニ立ル

一春ノ彼岸十日前ヨリ走渡ト云ニ成ナリ是ヨリ一[illegible]

一勢美一本ヲ九合ニ立ル

一雑頭一本ハ七合ニ九ヲ掛六合三タトナル

一年ニヨリ長須ヲ一艘五合ニ立ル白骨ヲ二艘ニ立ル筋丸切ヲ一艘八合ニ立ト
大骨ヲ一艘六合ニ立ル事モ有ル類ハ皆其年ノ様子ニテ相違ヿアル也

捌時ハ尺杖ニテ尺寸ヲ取ル之

此綱ハ図ノ如ク手ニ持テ扱フ
尋ノ幅ハ綱ヲ二人ニテ持チ
ノ図アリ 替ル必要ノ用
ハアラズ

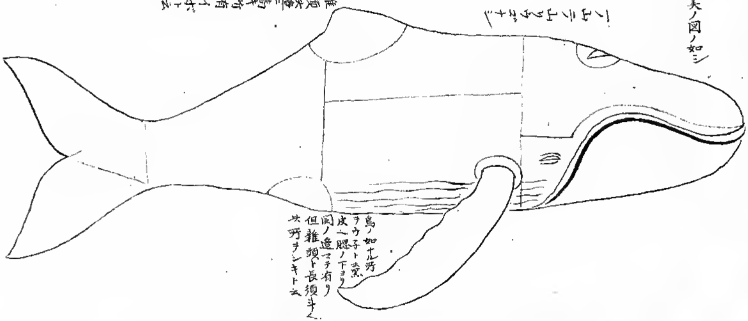
鯨ノ幾尋物ト云フハカバチヲ残
尾迄ノ尋ヲ當テ見事ニ大概四尺ヲ
一尋トイエ尾如図定ル故有増ノ尺ナリ
カバチハ別ニ尺ヲ当テ又幾尋ト云也
○柳南曰今ノ曲尺以度此故傚之

○捌方

一番　脊ノ皮ヲ取ル
二番　脊ノ赤身ヲ取脊肉ニ筋アリ
三番　腹皮左右ヲ取包タツパ扇切放
四番　大骨ヲ切放但此内ニウダキノ赤身ニ筋有
五番　山ノ皮ヲ切放
六番　タナヲ切放
七番　加バチヲ切放但此骨ノ上ニカブラ骨有
八番　サエヅリ并ハシ共ニ切放
九番　丸切ヲ切放但此内ニ筋アリ
十番　阿腹ヲ切放中之臓ヲ巻出
十一番　シキノ皮ヲ取但腹ノ下ウ子ノ所也
十二番　開ノ元トヲ取
十三番　丸切ノ内尾ハケ三ツ合切放

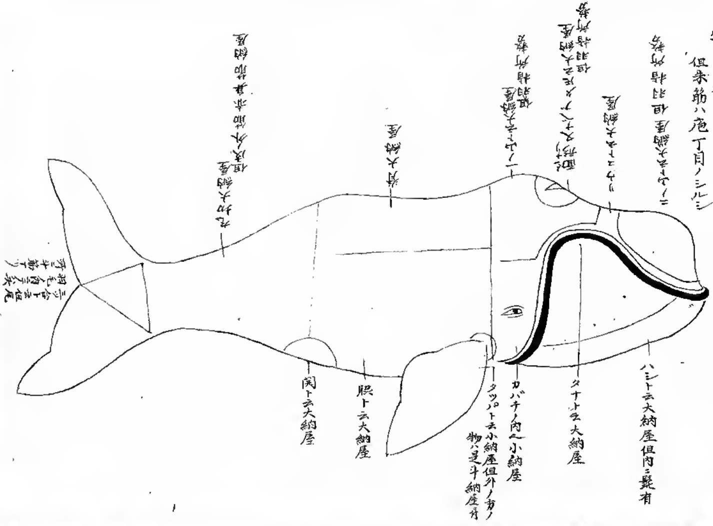
○雑頭捌方

但書付無之所ハ勢美ノ図ノ如シ



○勢美捌方

但朱筋ハ庖丁目ノシルシ



○切捌タル圖

△努美カバチノ上ノ皮ヲ切放タル図

△努美ノカバチ上ノ皮ヲ切放タル図

△カバチナノ図
鬚黒長シ 背一ツ

△努美之髮ヲ小切ニ切放タル圖

△下腮之図

△雑頭カバチ上ノ皮ヲ切放 腮ヨリ見タル図

△雑頭ノカバチ上ノ皮ヲ 切放シタル図

耳切ニキル元勢美同断

尖ハサキヨリ見タル図

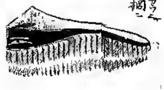
雑頭ハ一ノ山二ノ山撃(キウ)顋(コ)十ヒ
面形之外ハ大納屋ヘ入

尖ハ十ト顋ヲ切放シタル図

面形ト云寸尺見合又ナベブタ形云

△タバチ之圖

内之毛勢美トチガウフトク短シ棱櫚ニ似タリ



サエツリ勢美ト同断ヘ
但是ハ縮緬ノ如キ者ワ有

△雑頭之鬚ヲ小切ニキリタル図

勢美ヨリ短シ
雑頭ノ鬚ハ
作レト云之

△扇骨之圖

形ハ扇ノ如ニ立羽ノ附根ニテ胴ノ内ニ入ル所也共骨云ツアリ

△雑頭立羽之図

表ノ方勢美同様之
裏ノ方図ノ如シ勢美
ヨリ巾セマクタテ長シ

△雑頭イホノ圖

但長須モ同様

脊ニ少シ高キ所
アリイホト云ナリ
此所勢エ入ス

△勢美立羽之図

両面黒ク短シ

立羽骨二ツ
内ホウス二ツ
アレ四ツ
但
片立羽二ツヅヽ
骨ナ四ツ然レ
魚ノ大小ニヨリテ
二ツ三ツハ多少有

△勢美九切尾羽毛之圖

尾羽毛立羽共ニ雑頭ヨリ巾廣シ

皮ハ大納屋エ入
残ノ分筋納
屋エ入ル

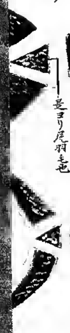
△雑頭九切尾羽毛之図

勢美ヨリ細シ捌方勢美同様之

九切骨ナ串

表ノ方勢美同様之
裏ノ方図ノ如シ

九切ノ内ニクラホ子五ツ
但魚ノ大小ニヨリテ多少
アル事モアリ



多ク□新

□合ス
背ニ筋有
筋納屋エ入ル

△大骨之圖

脊之赤肉ノ内
筋アリ脊節ト
云ナリ
大納屋エ入レ
介量テ改
但年之定ニテ節
納屋エ入ルコモ有
合定値段アリ

低キ所ニ赤キ肉アリ脊ノ赤身ト云之
大納屋ニ入
但白骨ニ付ケル赤身ハ大骨納屋エ入ル
白骨ハ骨納屋ニ入

大骨數
勢美者十三車
雑頭者十車
長須者十三車

△咽輪之圖

サラエ臓トモ云ハ
油ノ有所ナ
大納屋エ令
云也
巻出臓ト云ハ
其代小納屋ニ入ナ云一
夫改ニ小納屋ヨリ
先納金高増之
餌袋ニ丁子腸ト云アリ図ニハ書顕シカタシ

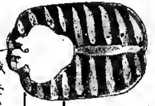
咽輪ノツキギハニイカ腸ト云アリ
咽輪モイカワクモ大納屋エ入ル
此所大納屋エ入ル
但白クヒラヒラトスルモノヲ
臓ノ肉トスル
フキ腸 臓納屋エ入
百ヒロ臓納屋エ入
大豆臓大納屋エ入

△阿腸之圖

但脊ハ下ノ方ニナル
是ハアラムキ之圖也

骨二十八本内三ツヅ
ブラ骨子ト云アリ
雑頭モ白須モ同断

但
ブラ骨十二チヤウ
チニ骨一
胸骨一
カノ骨一



阿腸ノ上ニ赤身アリ
アバラ納屋エ入
此所ヲ日輪トモ云
大骨付口也
臓ノ巻出ア中ハ行キ貫ノ穴也

○柳南曰大小腸長五十丈許改百尋云
凄食善止久泄

○惣骨數大小九百四十七有

△山所勢之図是ヲ山シヤウフト云
但勢美児鯨腹皮
雑頭長須股皮

一尺四方

二尺四方

三尺四方

長一尺二巾五
寸宛之

小川蔦大明神年子浦
分ノ權現同所八幡加
部蔦田蔦大明神
右之通備ルナリ

舩一艘ニテ羽指ノアリマエハ魚ノ大小ニヨリ
テ竹目違ナリ竹目二ツ判ニシテ一ツ分ハ羽指
一ツ分ハ十二人之水主トモガアル也

五寸四方

小川不動
加唐蔦祇園
右之通備也

△閉之元

但男女見分下違男鯨ハ乳斗高之

女鯨之乳也
但男鯨ハ閉之元エハ下付
高ク付斗

△セイト云貝之圖

但鯨身所々ニ付ル
貝ナリ
喰モスル風味不宜

生キテ居ル物出ツ入ツスルナリ

一黒皮　勢美ハ黒皮ト白皮ト様之白皮七分斗ノ所ニハ油スクナシ黄方吉夫ヨリ次ノ白皮ニハ油アリ切込油ノ方ヨシ○雑頭ハ黒皮モ白皮モ切込油ノ方吉○長須モ同様之

一白身　胴ト腹ハ不残油ノ方吉外ノ所ハ所ニヨリテ油スクナシ夫故食料ニナル所モアル也

一捌之内　口中ナリ尾羽毛ノ如シ切込油ノ方油

一山之皮　但カハナトモ云　切込油ノ方吉

一ハシノ皮　同

一同身　食料ニヨリ

一サエヅリ、サヤノミト云魚ニヨリテ油多ク水バカリノモノアリ主得ト魚ノ年数次第ナリ

一テンドウ　上アギト下アギトノ境ヲ云但壹岐国ニテハ是ヲテニヅルト云此所油ナシ食料斗リ也至極カタキモノ也但雑頭ノヨロシキハ油ノアルモアリ

一胴之赤身　但脊之外ノ赤身ヨリ軽シテヤワラカナリ但赤身之類油ハ取ザルナリ

一カバチノ赤身　宜シ然胴ヨリ外ノ赤身ハコワシ但カバチ阿腹身小背スノコ身此分塩ニシテ吉ナマニテハナヲヨシ

一豁身（アバラミ）　但阿腹毛書　赤身之内ニテ上ヘ

一小背　赤身之中ニテ極上ヘアバラノ中ニアリ

一大背　赤身胴ノ身ト同断ナマニテハ軽ク油少シ

一九切赤身　背肉ニ筋アリ大カヒ宜シ

一同黒皮　油ノ方ヨシ

一扇赤身　悪シ

一関ノ赤身　アバ身ニ次シ悪シ

一エビバ　歯ノ付根ニアリ

一アイノ身　黒皮ト赤身ノ間ニアリ魚ノ宜ニハ油モアリ○勢比斗之

一スノコ身　赤身同様也ウ子ノ筆ヘ腹ノ皮ト身ノ境也赤キ肉ニ白ク星ノ如チヨボヽト有之　雑頭ト長須斗之

一ウ子　皮之アギトノ下ヨリ関ノ辺迄テ下腹ニアリ下腹ヨシキト云シマノ如筋アリ　雑頭ト長須斗之

一ヒケ　勢美ノ方宜シ売物也

一筋　若キ魚ヨシ年経タルハ赤ニアリテ色悪シ

一尾羽毛　食料上ミ

二立羽　尾羽毛ニ漬テ食料上

一三ツ合白身　食料ニヨシ但此内ニハ筋アリ

一裸　俗ニ痢病ノ妙薬ト云然共シブルモノニテ大毒也

一臓之内左之如ク種類多シ

一イドワ　食料

一フキワタ　同

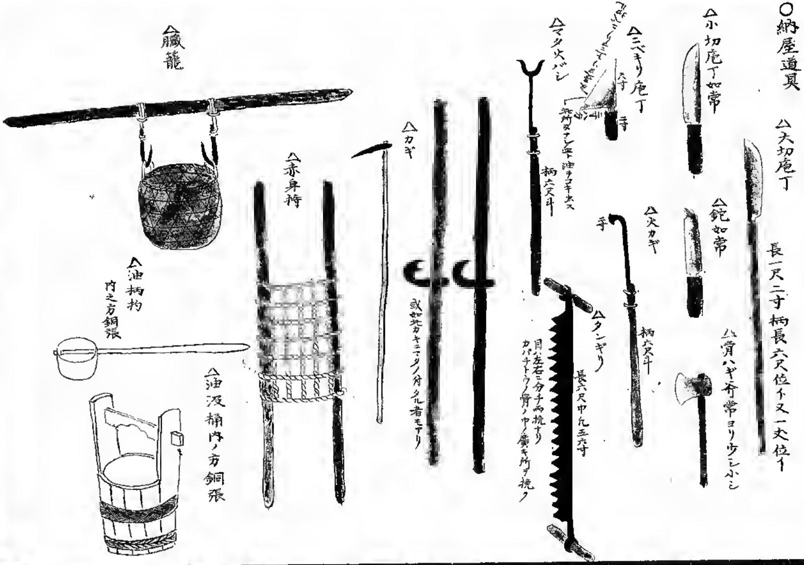
一マメワタ　同

一九　但白モ云　同

一胃皮　同但色白シ太鼓等ニ張ル

一ウスワタ同
一イカワタ同但イナノヘソノ如シ
一丁子ワタ同油ツヨシ
一臓ノ赤身 至テ悪シ
一百ヒロ 関ヱ續タル所ノ大ワタニ云下臓トハ関エカヽリタル所ヲ云之 此内ニカサト云肉ヨリ是ニベニ云油ヲトル、
一カラキモ 捨リ
一子袋 ハラミ子持ニテモ子ヲウミタルノニテモ當分ハ腹ノ内ニアリ魚ニヨリテ油モトル又食料毛ナル之
一ヨレ輪 子袋ノ内ニアル物也喰料ニヨレ但魚ニヨリテハナシ白子腹子持ニアリ

○納屋道具



羽指踊

○柳南曰船之遣上ゲモ退ヲ掌ル人也羽指ト云
長袖短袗其形如畢者

一定リテ踊ハ正月初踊斗ノ宮ノ前ニテ踊リ夫ヨリ納屋ニテ踊リ右済テ後茶碗ニテ酒盛シテ祝フ也

一カンバン者紺ニ染丸ノ内ニ金之字ヲ白アガリニ大キク後ニツ付ル之
但羽指後四人者萌黄裏若羽指廿六人ハ紅裏廣袖ニシテ夜恙ノ如キ仕立帯者自分〻之帯故色〻也

一後羽指四人者老人モアル故ハダヌカサルモアリ若羽指ハ不残両肩ヲ脱也

一ナンド品ト有ウタ品〻アリ大鞁打鉦ヲモ打人但鉦ハ鯨ノ供養ノ意味也
ナンドワウタ品〻アレ共其一二ヲ挙テ左ニ記

一イワイ目出ノ若松サてヨ枝モ栄エル葉モシゲル三國一シヤアスハアミニ大ガケシヨ

一竹ニナリタヤヲ山ノ竹ニ旦那栄エル葉モシゲル三國一シヤアスハアミニ大ガケシヨ

一納屋ノロクロニ綱クリカケテ子持巻クノハヒマモナヤアスハ綱ニ大ガケノシヨ

本書ニ踊之圖有略之

○近國漁事有之場

壹岐國
前目浦
勝本浦

五嶋
栢浦
有川浦
魚ノ目浦
黒瀬　春組
イタベノ大嶋
浮嶋

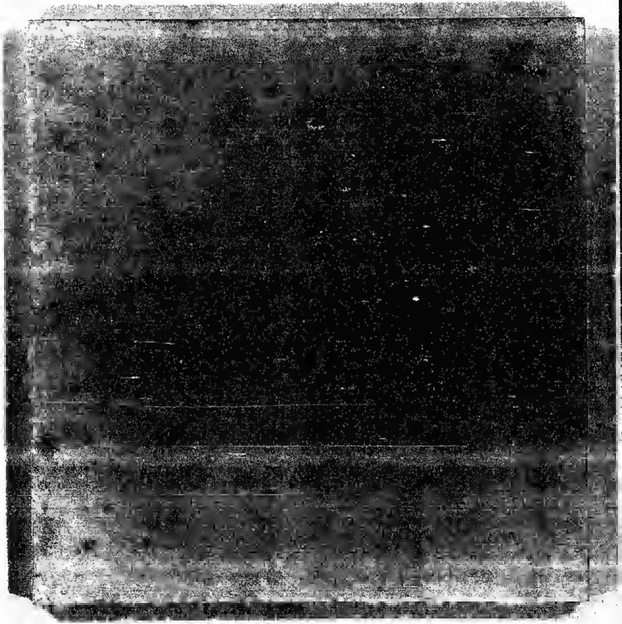
長門
カヨヒノ浦
センサキ浦

平戸
アツチノ大嶋
カギノ浦
生月浦

對馬
ワニノ浦　春組
マワリノ浦　春組

筑前
カジメノ大嶋
ヲロノシマ　冬組

右巻之壹終



寛政十一年　柳南雑記　上
著たごし

吉本晴修斯ノ著之
巻ノ序ヲ抄ヲ得ノ

下

00
5839

此以下抑南補遺

○香車魚　出于海槎餘録

源順曰唐韻雄曰鯨雌曰鯢萬葉集訓鯢魚曰伊佐奈或作勇魚

海鰌出于閩書或名鰌鯨

李東壁曰海鰌生海中極大江鰌生江中長七八寸泥鰌生湖池最小長三四寸

海翁出于典籍便及三才圖會音屁支羅

○世美鯨

長自七尋至十二尋

俗以尋為曲尺今倣之

野必大曰鯨以世美為上品其大者七八丈十餘丈許過之者未聞矣之中者五六丈小者二三丈世美子鯨形色略與親同以其不長形色亦淺薄大者不過二三丈頭尾鬐鬣隨形之小

抑南曰此世美鯨六種之中上品如十三尋者獲于油二百斛如七尋者油四十斛八尋者油少漸十斛許也

漁家名達波

即鬐

○座頭鯨

長白七尋至九尋
鬐長一丈餘一片黒一片白
肚皮重〻作畦如綿竹
片呼曰簀子皮也其餘
世美不異

此鰭形如琵琶
漁家呼謂疣

野必大曰俗呼瞽者為座頭此魚之背有方二尺許之鰭如琵琶之形村巷之瞽者負琵琶而行乞食里落勢州最多故名乎或曰取無目之象故韻書引異物志曰鯨鯢或死沙上皆無目俗謂化為明月珠是不的當異物志以死後無目而言雖性詭亦於瞽不害今座頭鯨有明然何以無目之象而言乎

析南曰雖當鈷鉾此物逃去速也子持鯨者易得殺其子半死半生則母鯨返而掩其子故母子共得之今用天綱故多不能漏走也盡得之

兒鯨

○兒鯨　長自一丈五尺至二丈一二尺

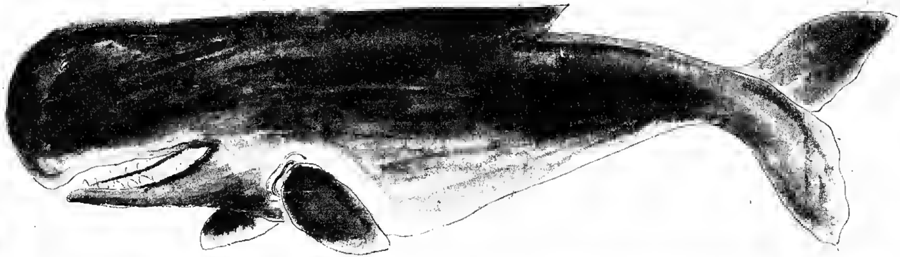
野丹缶曰小鯨者淡黒或灰白色鬣白長一尺五六寸廣三寸許厚二三分呼爲白鬚子大者過一二丈

真甲鯨

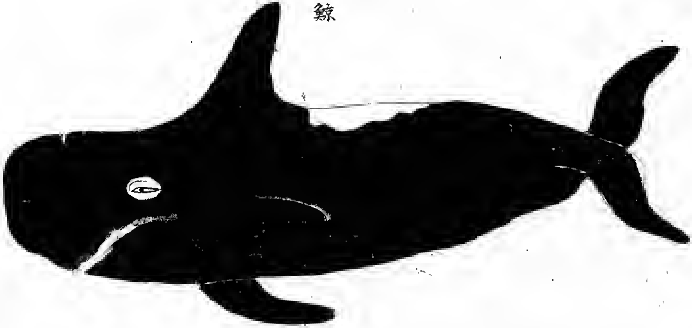
実齊先生曰是亦
吾邦鯨之一種

野必大曰真甲鯨者形色長
大略類諸鯨而有大牙如牛
犢角好逐海鰛而浮来世稱
紀勢及總常江海有之西海
不見之脂少肉麁好不采之

新甫曰今此牙多在焉大者尺
許小者五六寸許蓄象牙混
交偽以神於人齒脫以謂象
牙

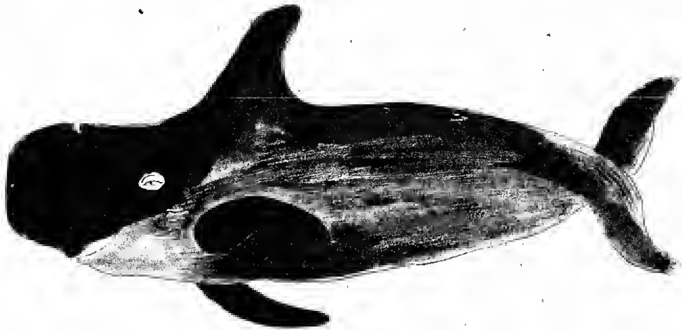


吾土鯨 奈伊佐吾土



大灘吾土鯨

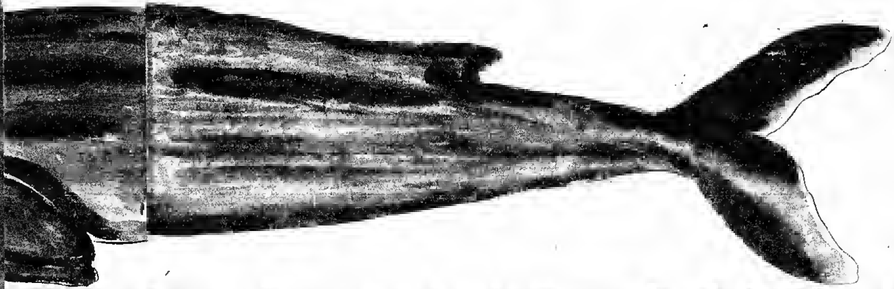
潮吾土鯨



○長須鯨 自十餘丈至十七八丈

野必太曰長須者形色似世美其亦有死醫大者十餘七八丈常沈水底而浮者稀矣漁人不能求之

○柳南北形狀者非長須鯨無死又児鯨之類乎全形灰白也又長須之別種歟全形者鰮鯨



野心岳曰鯆者小魚不過丈許嘴如鉾頭頭以下略類鰆而大其肉麁脂多漁人不得鯨則求鯆熬膏世稱頭面如龍餘似鯉之肥

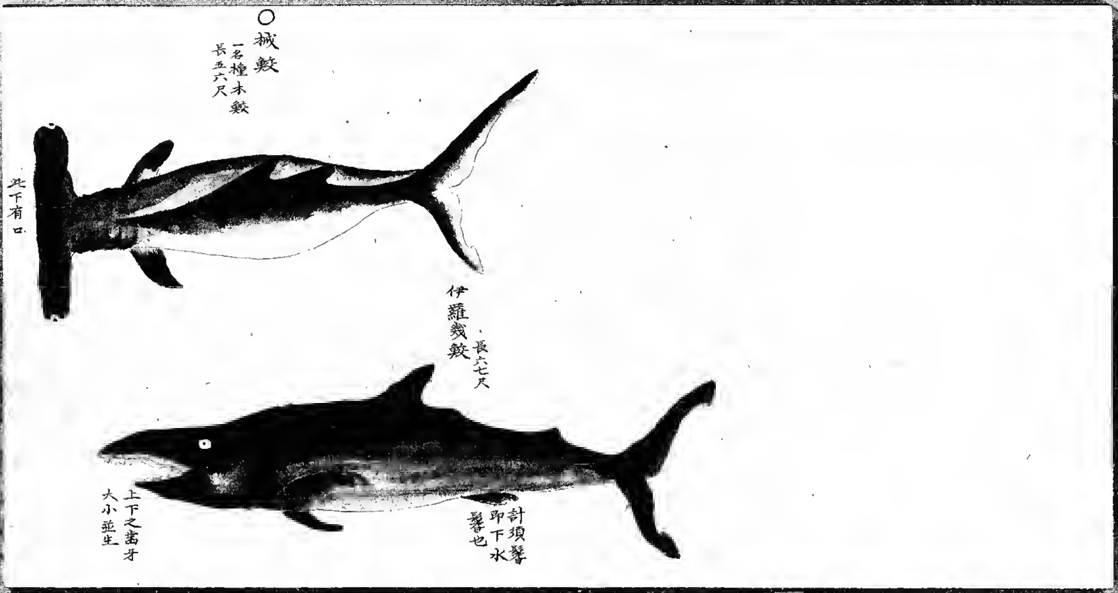
○志也知保古
一名左加未多
亦名黒土保宇
長一丈四五尺

○柳南曰吾聞之云有魚虎者其歯鰭如數十釼鉾而在鯨口傍鯨刺傷於頰腮其聲響于遠困迷而開口魚虎隨投入于口内囓嚼其舌根蝕盡而去乃鯨死漂海洋此言志也知發利凍人獲此大利云

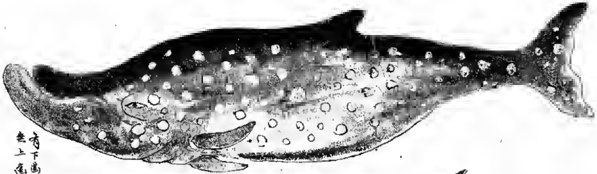
○海豚 長六七尺

李時珍曰海豚江豚皆因形命名又作鱀鯑也又有江𧉬江猪水猪之名

○條海豚 長同上條割寸止

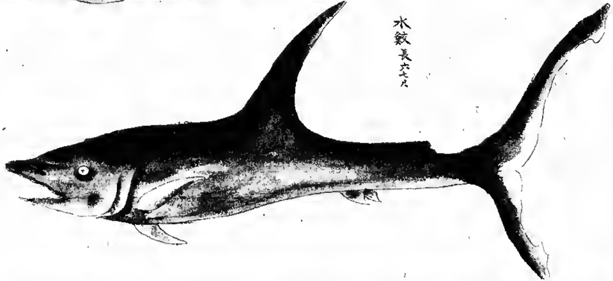

○械鮫
一名橦木鮫
長五六尺
此下有口
伊羅幾鮫
長六七尺
上下之歯牙
大小並生
計須鬐
即下水
鬐也

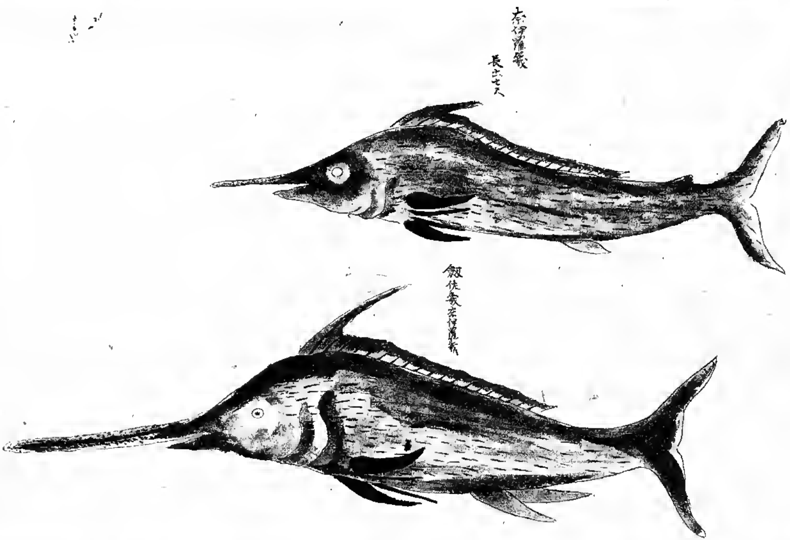
赤保字長一丈五六尺



有下齒無上齒

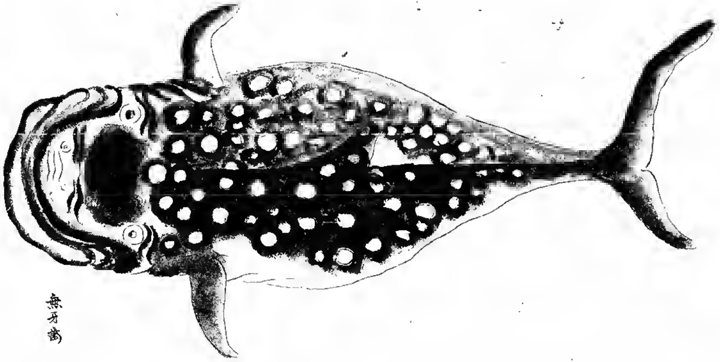
水鮫長六七尺



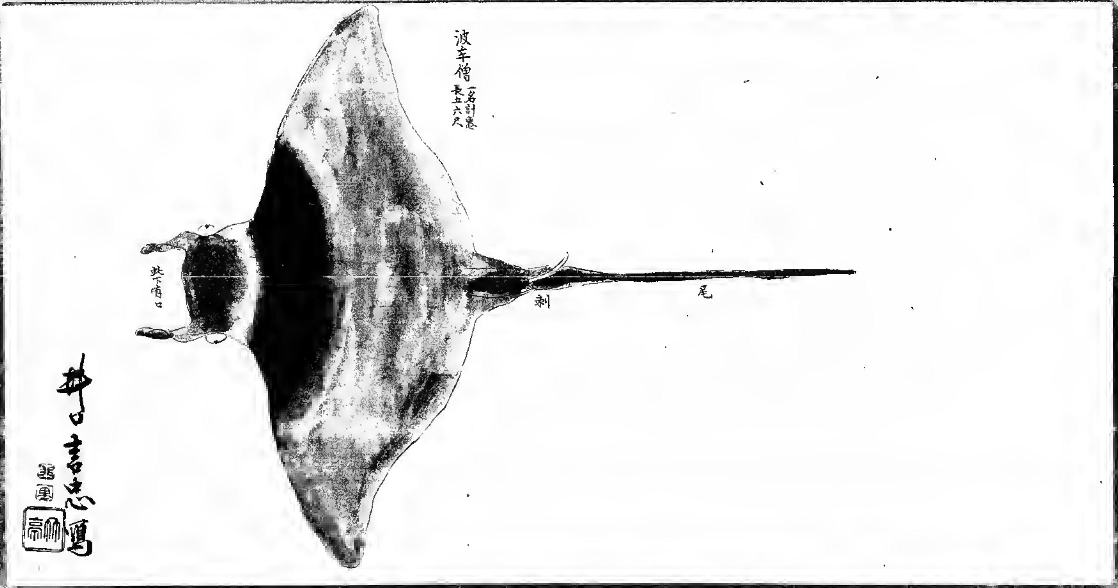

奈伊羅鐵
長六七尺
劔佐象奈伊羅鐵

鰮鮫

長丈餘



無牙齒



波牟僧
一名計恵
長五六尺
此下有口
刺
尾
井口吉忠寫

以下右の物語ノ序ノ扶翼古書ノ此序なり

小児乃弄線一件の巻序

聞く曰世書は一件漁事の巨細毫髪も残さず載せ兼と
爰に云我ある時雨月養生庵に泊まりて小
川崎の漁を徒に見物岡の麓に停まり總て孤島に入
る小屋くまとおく竈も煙立てりて市中に似
たり行く小舟より自ら吊る酒を汲し其日を過ぬれども
相図乃笛川わくさを山上の羽指漁廻をあせかり山下の水主
浜をおきし捉縄解て鯨船小五艘櫓柁取を揃へ出て
鳴止んで勢子船の先機を争く沖上は走車行舟を皆に平原
行くが如し約束の会席に返船は進退自在をなさ
と会せ老と口をそこ打ち鍔を持乃働きたと云
やるすり物に一二矢銛の前後を競い羽刺の手にわたり
は煙波をかねて寄し標乃小幟風に翻り鯨路取納岡にうち
前よりそ滴る血を切裂ち肉黒白黄紅相互に血汐汁
に漲り磯急ぬ香に磯の奇観ともなけり深くささき風
倍として老も若も一昼に顔揃ひりきやかんて大小喚
もりくわらんと錠る種類差別頭分しされども其業を営
かつまれ得手勝手を流布に老人ゆさく等蜑小作しれ更を
徹夜のんだも古老語くわらふお思ひ此ぞさへおれども然るわりを
揉り知らぬ各所の知るといふの徒はわふれぞ見ゑに心遊ひ開
いて心残やられ退く筐残ころに品類種の海はわましバ花鯨
ちて一天より晴かくて淵とせる陸海残るりて一覆足珠瑞
る要に意見るれお〻く薦見い畑り〜考れど妻く抱きて
候らんと雌男鯨女小肉つばあるれも安く至へにある尚を粗手に
其頼くて中は遍義ちも何やと遥しふして漁は作しき泳郷
されを接人網鍔の多き紛飛とまつて只離縦の年聴すゐて
のと更に漁父乃商ひる詠を敲く秘を人ずこまわりせ其趣の世家
入り万民は何くいは捨かりもより此くとおとすり浦乃みる処
は祭一同集ありやしき一巻さなすきの也此書に載が
く絵を画写写して別に三枚なり成る是補ひ錯るを然
のんとを接の好事残待のこなす衆を自問自答して書画り
雅さ成事はのこと

肥前唐津城南蕃
攸々軒述

○羽指踊

一 定りて踊るハ正月初踊ヶ也。宴乃前ニて踊り。夫より納屋ニて踊り。右済て後茶碗ニて酒盛をして徒る也

一 肴板(サンバコ)ハ組ニ縁。丸乃内ニ念の字を白抜りに大きく紋口ニ一ツ付也。但役羽指四人を萌黄裏ニ。若羽指二十六人ハ紅裏也。袖ニして夜着のこちく仕立ん帯ハ白かくの帯板色々有之

一 役羽指四人ハ老人ニて年ん中人ちょうし鉢がざゝるも有り。若羽指ハ残らず衣層(かり)球脱く也

一 おんど取と有。うく取と云ふ。太鼓ニて証拠ニ之。但鯨供養の意味之

おんと家うく取く何れも其一二を挙く

たく紀ス

○いろ井同出さの若松よ。枝も葉へも茂る。三国一しや何事をけしよ

伊勢為お参宮(ヰ)はゝの文句ニ随ふれども大体ハ同し

宮やお山の竹の丑那栄へる。三国一しや何もなき

三哥の末の哥ハ何れ九州の上る下りやのさしよ

経ニ経久りうけて子持おもなや。あきハ何しり

之字ニ作る

たくけしよ

○羽指踊

一定りて踊るハ正月和踊計也。宮乃前にて鯨踊り。夫より納屋にて踊り。右済て後茶碗にて酒盛をして詠候也

一看板ハ紺ニ染。丸乃内ニ舎の字を白抜きにたまく襟口ニ一ツ付ル也。但役羽指四人ハ萌黄裏。若羽指二十六人ハ紅裏也。廣袖にして衣裳のことく仕立たる。帯ハ白縮くの帯なり色ニ有之

一役羽指四人ハ老人にて在るゆへ踊らぬもかざるも有り。若羽指ハ残らず踊る。鬮(ハツ)球賦く也

一おんど取と有ハうた取也。太鼓打証打之。但証ハ鉦。供養の意味之

おんと取うた取て何れも一二と挙く
たゝ能ハ

○いざ丹国出さの若松ゆさ。枝も葉も栄へる家もさかゆる。三国一じゃ何某を
めでたいなみけしよ

○此は祝ひや お山の竹は。旦那衆へる家もさかゆる 三国一じゃ 何某を
わみニ大かせしよ

○納屋乃ろくろニ綱をくりかけて。子持巻くのハ[illegible]もなや。あまた[illegible]
大かけしよ

○近國漁事有之場

△壹岐國

○前目浦（マエメノ）

○勝本浦（カザモト）

△平戸

○あつち大嶋

○加紀の浦

○生月浦

△五嶋

○柏浦

○有り川浦

○魚ノ目浦

○黒瀬　春組斗

○[illegible]の大嶋

○渡嶋

△對馬

○ろふい浦　春組斗

○海ちり浦　春組斗

△筑前

○かじめの大嶋

○おろの嶋　冬組斗

△長門

○かよひの浦

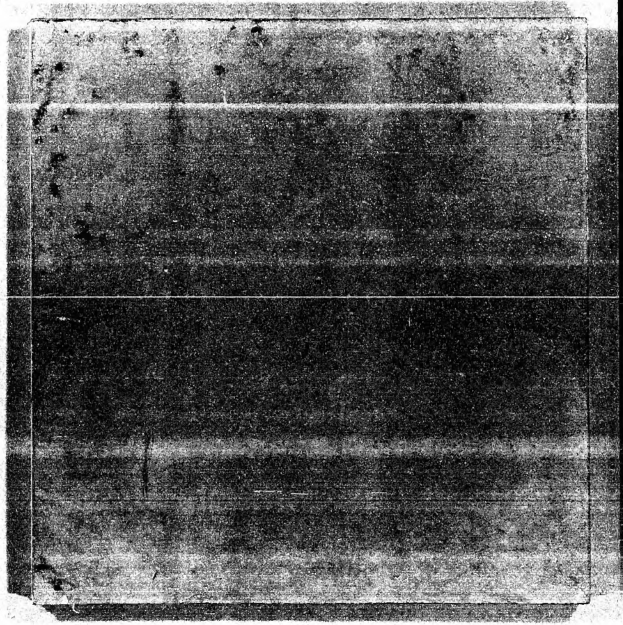
○せんざき浦

右に画図別に二枚なりといへども たゞ數を群童勢て目離しくふーして見聞くに安からん。又數ハ一物景し。願くハ此書に書記せる見易からん事を為しに海にふ世話のへ俗三り子に教へら禮く。清き川流をつゝ數あらん。此雑品ハ申すべし。

依ホ別圖の二枚を小畧して巻中よ出入る事有の
こと―

證

安永二年癸巳春二月　木崎攸軒入道盛標
行年六十二歳識

嘉永元戊申年初夏

泰光書之